

# 掲 示 板

2019 年度 第 2 号 通巻 96 号 2019 年 9 月 21 日発行



えび豆のエビ

## セミの鳴き声とともに

やっと過ごしやすい季節になってきましたね。フィールドレポーターの皆様、こんにちは。

皆様は、今年の夏はどのように過ごされましたか？お天気がすぐれない日が多く、予定が変わってしまったという方もいらしたかもしれません。水生動物学が専門の私は、日々バイカルアザラシの観察をしています。この夏は家族で、鴨川シーワールドと箱根園という水族館へ行ってきました。鴨川シーワールドには、バイカルアザラシに近縁のワモンアザラシがいますし、箱根園には、冷たい井戸水で飼育されているバイカルアザラシがいます。いつもの研究意識もどこへやら、つつい子供と一緒に、「可愛い、可愛い！」と楽しんでしまいました。

さて、今年の第 1 回アンケート調査「夏のセミの調査」が行われています。

琵琶湖博物館の周りは木々も多く、たくさんの生き物たちがいますが、皆様のお手元に調査票が届いた頃、ニイニイゼミが鳴き始め、次第に騒がしいクマゼミの大合唱に変わり、夏らしいミンミンゼミが鳴き始めたなあと思ったら、最近はツクツクボウシの声も聞こえなくなってきました。調査がきっかけで、季節の変化をセミの鳴き声と共に感じる事ができました。調査票はまだ間に合います！ちょっと書いてみようかな、そういえばうちの周りでもセミの声がしていたな、と思われた方、ぜひご意見をお寄せください。

最近の定例会では、スタッフが集まる机の上には、セミの抜け殻とエビ豆がよく見られています。

エビ豆は、滋賀県の郷土料理のひとつですが、なぜエビ豆??と思われた方！さっそく中をご覧ください。

フィールドレポーター担当学芸員 松岡 由子

☒ ☒ . . . 📖 📖 📖 . . . . . も く じ . . . . . 📖 📖 📖 . . . ☒ ☒

	セミの鳴き声とともに	松岡由子	P1		エビ豆の謎によせて	掲示板編集長	P7
1	アキアカネマーキング 調査 in びわ湖バレイ	椛島啓紘	P2	5	ベランダの珍客 3	草津 家猫	P8
2	ど根性モミジ	湖西の住人	P4	6	びわ博フェス案内	FRS	P9
3	活動状況報告・活動計 画案内	FRS	P5	7	武士は辛いものよ	近江心気郎	P10
4	エビ豆の謎	草津 家猫	P6	8	お知らせ		P12

# 1. アキアカネマーキング調査 in びわ湖バレイ (報告)

FRS 椋島昭紘

8月3日(土曜日)、好天に恵まれ直射日光がまぶしい日でした。気温はどんどん上昇し、打見山の気温は、午後には31℃と表示されていました。2008年から始めたフィールドレポーターのこの調査は、今回(2019年)が11回目になります。ロープウェイ山頂駅を降りて展望台付近へ行くと、アキアカネの群れが昨年より少ないようでした。暑い日差しが影響しているかも知れません。

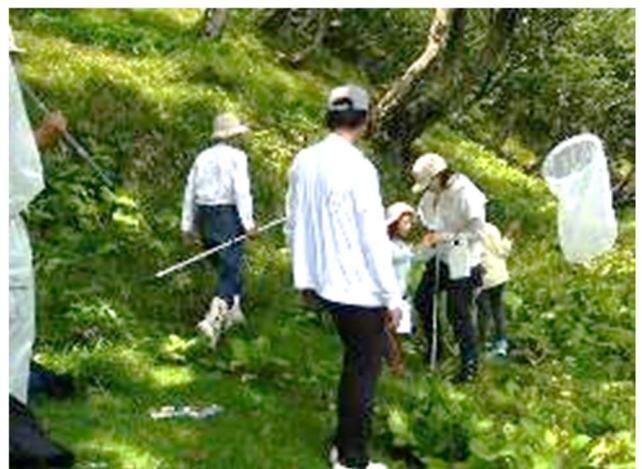
参加して頂いた方々は14名で、内小学生以下4名でした。調査開始にあたって、八尋学芸員により、準備して頂いた資料でトンボの種類やオス・メスの見分け方を解説して頂きました。

午前11時から午前の調査を開始しました。少し遅れて参加された方々もいらっしゃいましたが、打見リフト横の登山道を約1時間調査しました。例年調査してきたこの登山道は、リフト終点までのほぼ中間で通行止めになっていて驚きました。昨年より娯楽施設が増えているようで、打見山の山頂の草木の生育場所が減っていました。



約1時間で午前中の調査を終了して、木陰になっているアサギマダラの広場から水神さんの近くに移動して昼食にしました。

午後の調査は昼食をした場所から開始し、山頂までの帰路の登山道を約1時間調査しました。



午後2時過ぎに山上案内所前に集合して、「アキアカネのマーキング記録カード」を各自整理し提出して頂き、解散しました。暑い中本当にお疲れ様でした。事故も無くて、楽しく調査ができました。皆さんご協力ありがとうございました。

皆さんの記録カードの集計結果は次の通りです。提出者数 13 名、マーキング頭数は表 1 の通りで、総数は 411 頭でした。昨年よりも少なかったのは、天候に恵まれ、直射日光が暑いためアキアカネも葉陰から出てこなかったからかも知れません。オスとメスの比率は表 2 の通りです。今年もメスの比率が高かったです。過去 11 回の調査のオスとメスの比率を図 1 に示しました。

	午前 1 時間	午後 1 時間	合計
調査頭数	220	191	411

表 1 調査参加者（13 名）のマーキング頭数

	頭数	比率(%)
オス	139	34
メス	272	66

表 2 オスとメスの比率

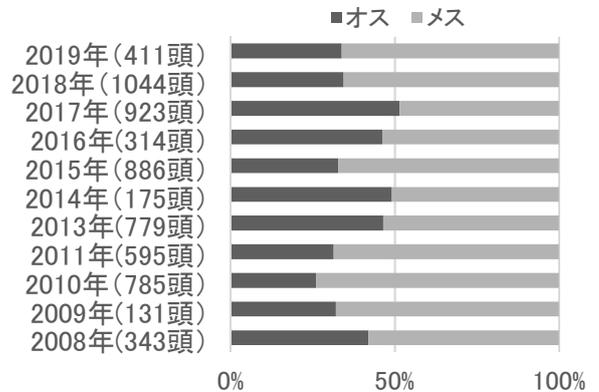


図1 アキアカネ夏調査(過去11回)オス・メス比率

記録カードの自由記述欄に記載して頂いた方々の文章を紹介

☆昨年の道が通れなくなっていた。事前のチェックを！

☆あつかったけどいろいろなむしさんが見れて、たのしかったです。

☆PM から日差しがきつく前日の雨と湿気で、日陰で風通りが良い所でも少なくなった。

☆草にとまっている個体がそれほどでもなかったなので、昨年よりもマーキング個体が多くないかもしれないが、群れとしてはいつもくらいの数にいるように思う。ナツアカネ、ノシメトンボを全く見なかったのが注目される。

☆午後からトンボを見かけなくなった、ヒグラシが2頭いた。

☆おもしろかったです。

☆あつかった、楽しかった。

☆今年はトンボが少ないと思っていたが、彼等が好む所を見付けてそこで網を振ると案外効率よく採集できる。

☆山頂に群れが少なかったので心配した。笹の陰に群れがいたが、網が引っ掛かり捕獲しにくかった。アサギマダラ、ヒグラシ2頭、ヤンマを見つけた。スズメバチの巣があったが何事もなく良かった。

(文、図、写真；FRS 椋島昭絏)

## 2. ど根性モミジ

湖西の住人

隣家の道路脇のクレーチングから、小さなモミジが頭を出していました。どこからか飛んできた種が、幅、深さ共に30 cmほどの三面コンクリートの溝で発芽し、底に溜るわずかな土に根を下ろしたようです。厳しい環境で見事に育った“ど根性大根”になぞらえて、“ど根性モミジ”と呼ぶことにしました。

ど根性モミジに初めて気がついたのは5月7日。葉は小さな掌形(てのひらがた)で5裂し、重鋸歯(葉の縁のギザギザが二段構え)があるので、イロハモミジと思われました。ただ、近くの遊歩道にあるモミジの葉はどれも淡緑色をしているのに対して、この木は赤茶色の縁どりが目立ち、黄色～黄緑色～赤のグラデーションがとてもきれいです。「レポーターだより」に「園芸品種は春の芽出し時期に葉の色が美しいものが多い」と書かれていたので、園芸種の実生なのかもしれません。



グラデーションの美しい、生き生きとした葉  
(5月7日)

この溝は雨水の排水溝です。土やコケが溜ると、そこに草が生えてきて流れが悪くなるので、自分の家の前の溝をなるべくきれいに保つようになっています。せっかく芽生えたモミジですが、家の人が溝掃除をするまでの命と思われました。ここで成木になることはありえません。幼木はこれからどんな運命をたどるのでしょうか。



先端部は枯れているが、下の方で脇芽が伸びる。  
(8月6日)

8月6日に見ると、モミジはまだ溝にありました。枝葉の伸び具合がわかるように、5月7日と8月6日の写真上に同一の葉を白矢印で示していますが、木の高さは両日間であまり変わっていません。変わったのは、5月に勢いがあった枝の先端部が枯れ、その代わりに中間部から新たに脇芽を4カ所から出していることです。また、5月からの葉は色が緑色(枯れかかった葉は茶色)になり、一方で新たに出た葉は黄色～黄緑で縁は淡紅色です。

2回の観察から察すると、芽出してしばらくは葉の縁が赤いけれども、夏の強い日差しによって光合成が盛んになると緑色になる品種なのでしょう。それにしても、本来湿った場所を好むモミジが、こんな場所で盛夏を生き延びているとは不思議です。モミジの根が、溝のコンクリートを突き破って、その下の土壌まで達しているのかもしれない。お隣さんに、「きれいなモミジですが、早めに抜いた方がいいのでは？」と声をかけてあげようかどうかどうしようか、迷っています。

### 3. 活動状況報告・活動計画案内

フィールドレポータースタッフ

現在、2019年度第1回調査「夏のセミの調査」が実施中です。レポーターの活動内容が寄せられている最中です。

同時に、2019年度第2回調査のテーマがまとまりつつあります。10月に開催するびわ博フェスの準備と同時進行で、現在調査資料を作成中です。12月には、第2回調査の調査票をレポーターの皆さんに送付する予定ですので、ご協力をお願いします。

#### ① 夏のセミの調査は締め切りが9月末です

9月に入って、私の住んでいる近くの大津市皇子が丘公園、近江神宮近辺では、8月にうるさい位鳴いていたクマゼミの鳴き声が減ってきました。皆さんの近くではいかがですか。

調査の締め切りは9月末です。セミカレンダーを見ると9月末まで、鳴き声や個体を見付けることができます。抜け殻も見つかると思います。今からでも調査をして、沢山の調査票を送って下さい。お待ちしております。



(文、写真；スタッフ椋島昭紘)

#### ② 秋の赤トンボ調査を10月12日(土)に予定しています

毎年10月頃は稲刈りが終わった田んぼの周りで、赤トンボが見られます。

フィールドレポーター主催の恒例の秋の赤トンボ調査を、10月12日(土)午後に、大津市伊香立南庄町で今年も予定しています。この場所は赤トンボが多く見られるところで、調査に参加された方は多くの赤トンボを見つけて満足して頂いているところ です。

最近、身の回りで赤トンボが減った、見つかりにくいという声が聞かれます。この機会に、調査に参加して赤トンボの乱舞を見に来てください。待っています。



(文、写真；スタッフ椋島昭紘)

## 4. エビ豆の謎

草津 家猫

初めて食べたエビ豆は、スジエビ（以後エビ）が堅くガシガシしていて口腔内に刺さり甘辛く、私好みではなかったのですが、沖島に行った人から土産にもらったエビ豆は、エビも柔らかくて食べやすく、豆よりもエビの含有率が多く感じられました。エビと豆の比率に基準はあるのか？材料の入荷量次第か？たまたまなのか？調べてみよう、と話が弾み、別々の3つのエビ豆を購入して計量してみる事にしました。

### 計量と記録の方法

- ① 商品の全体がわかる写真を撮る
- ② 販売店や製造店を記録する（後日追跡調査ができる）
- ③ 原材料名シールがあれば、材料の記載順で先にくるのはエビか豆か記録する  
（原材料は、量の多い順に記載されるため。）量り売りなどで不明の場合は「記載無」とする
- ④ 汁気が多ければ、汁気をきって固形物のみ 50g 計る
- ⑤ エビと豆にわけ、それぞれ数える（エビの頭だけや胴体だけは、ひとつあたり 0.5 匹とする）
- ⑥ それぞれの数と重量を記録する

項目 資料	材料名順	エビ数 (匹)	エビ重量 (g)	豆数 (個)	豆重量 (g)	エビ：豆 (g 対比)
サンプル 1	大豆	59	16.5	35	33.6	1：2
サンプル 2	記載無	16	4.5	52	45.8	1：10
サンプル 3	記載無	20.5	4.3	60	45.4	1：10.5

上記サンプルに沖島産は含まれず、3品だけでは何も考察は出来ません。炊き方の本を数冊見比べてみても、比率はばらばらでした。入手した材料で炊くようなので、漁港から離れるほどエビが減り豆の比率が増えるのではないかと仮説を立てました。真相はどうか？

皆様のご意見をお寄せ下さい。

### エビ豆とは

一年中とれるスジエビと大豆を炊いた料理。日常食エビは腰が曲がるまで、豆はいつまでもまめに暮らせるように、との願いも込められているそう。



### 調理例

大豆を洗い水に一晩漬け、柔らかくなるまで茹で、水気を切っておく。

砂糖・醤油・酒・みりんを鍋に入れて煮立たせる。

洗っておいたエビと柔らかく茹でた大豆を加え、中火で煮汁がなくなるまで煮る。

“エビ豆”についてはフィールドレポータースタッフ内でも話題にあがり、具体的な調査対象としては未定ながら、面白いとの認識があります。

私個人としても当件に興味のある所でしたので、投稿内容を勘案しつつ街角歩きをしました。

街の中から個人商店が少なくなり、商店街は今やシャッター街の別称となっているのに、浜大津の仲町、菱屋町には3軒の川魚加工販売店が自前で煮込んだエビ豆もあわせて販売しているのを見つけました。きっと、おなじみのお得意さん需要があるからだと思います。

であれば他の場所にも店があるはずと推測のもと、旧東海道筋を東に向かって歩きました。

結果：(西ノ庄、大津プリンスホテル近く)に1軒、膳所に1軒、石山商店街と唐橋商店街に行って探せば何軒か見つかりそうです。町の煮売り屋さんがまだまだ健闘して、地域の食卓を支えている姿を見るにつけ何故かほっとした気分になりました。

そこで思い切ってお店訪問、煮豆の調理から仕上げまで観察を目論みました。

お店は膳所神社門前、ウナギのかば焼きでちょっと知られた「馬杉湖魚店」。店の名出し、写真は何を撮っても全部OKと了解。オヤジさんの笑顔もばっちり頂きました。

豆は前日から仕込みに入り、じっくり煮込んであります。えびは当日朝から煮付け、両方熱い状態(ここがポイント)で大鍋に入れ混ぜ合わせるとエビのおいしさが「よう豆にシュミまんねん」(ご当地弁)。

エビと豆の割合は?と聞きますと「そんなもん、テキトー」と至って簡単なお答えでした。が、長年の経験と勘所はそんなもんでない事を十分感じます。

50人前くらいかなー。という大皿2枚分が半日で完売するそうです。販売は金曜日限定のエビ豆です。



大皿に盛り付けられた商品



ざるから取り分け作業中のご主人

## 5. ベランダの珍客3

草津 家猫

たわわに実った巨峰に惹かれて買った葡萄の鉢植えがある。午前数時間の日当たりでは実は望めないで緑を楽しんでいる。冬に剪定し春に新枝が伸び、なかなかの茂りになったと喜んでた。ところが6/27の水やり時、鉢下に見慣れた俵状のコロコロしたものが多数散らばっていた。ヤママユガを飼育していたおりに見た糞に似ている。よく見ると柔らかい若葉が減っている…、これはなにか居るはずだ、どこだろう…

いたっ!! はちきれんばかりのプリプリした大きな幼虫(約10cm)が葉陰に4匹も!!!!



幼虫

ピン! とのびたしっぽ(?), キラキラと光る腹の模様、薄緑と薄小豆色の2匹。色の違いは別種か? 卵のあった環境の違いか? とにかくどんな親が産み付けていったのか、飼育して確かめてみようという好奇心がわいた。しかしそのままベランダに置いておけば鳥に食べられ、孵化を見届けられないかもしれない。かといって部屋に取り込んで糞をまき散らかされるのも困る。仕方なく虫かごに確保することにした。

1日に1匹あたり15cm前後の葉2~3枚を葉脈も残さず食っちゃ寝を繰り返す。今年の葡萄の葉は諦める覚悟をしたが、食欲旺盛な幼虫たちの食べっぷりに葉っぱは足りるか不安になった。

ところが、飼育2日目に体が少し縮みはじめ、サナギになる準備を始めたのでそれぞれ個室に移し、枝代わりに割箸を入れ観察を続ける。葉っぱ1枚をロール状にしてその中にこもったり、2枚を所々糸で固定し隙間のある風通しのよいゆりかごをつくったり、容器と葉の間でサナギになる支度をするなど個性的で面白い。カイコのように糸でマユは作らないし、蝶のようにぶら下がったり体を枝に固定したりもしない。7/1には脱皮して茶色いサナギ4cmになった。



蛹



成虫

そして、1週間が過ぎたがピクリともしない、心配になり軽く揺らしてみると”なにすんねん!!”と体をくねらせたので生きていたと安堵。2週間後の7/15夜に羽化、流線型の体からスズメガの一種だろうと推測。昼間と日没後はおとなしく22時頃からバタバタと羽ばたく。体力消耗を防ぐために明るい部屋に置いてみると羽ばたき始める時間もやや遅くなる。同定しやすいケースに移し換える時、あっ!とゆう間もなく秒速4mも飛んだので速っ!!と驚きました。

博物館で再度確認して、このベランダのお客さんはスズメガ科の**コスズメ**と確定しました。

## 6. びわ博フェス 2019

フィールドレポータースタッフ

今年も、2019年10月19日(土)・20日(日)の二日間、びわ博フェスが開催されます。多数のはしかけグループがワークショップを企画しているようですが、フィールドレポーターでもワークショップを主催します。

フィールドレポーター

### せみあそび●セミクイズ

開催日：2019年10月19日(土曜日)

時間：13:00 ~ 14:50

会場：会議室

定員：なし (未就学児は保護者同伴)



折り紙でセミを作って飛ばしたり、セミ各種の形や  
鳴き声のクイズに答えたりして、楽しく遊びましょう。  
お待ちしております！

### 博物館からのお知らせ

博物館のリニューアル第3弾として、2019年11月24日(日)をもって、A展示室とB展示室が閉室となります。

それに伴い、10月27日(日)A展示室、11月4日(日)B展示室のクロージングイベントが行われます。詳しくは、博物館HPをご覧ください。

リニューアルオープンは、2020年7月の予定です。ご期待ください！

## 7. 武士は辛いものよ

投稿：FR 近江心気郎

「橋の名前調査」を行なった際、名前があって当たり前の無名橋がありました。我が町膳所を流れる相模川が旧東海道と接する橋で、私の記憶では「新堀橋」。

そのまま報告してもよかったのですが、念のためと考えて土地の長老に記憶を辿ってもらい確認することにしました。その結果は「新堀川橋」という人が意外に多かったのです。私の聞いた「新堀橋」と半々くらい。

であれば「新堀川橋」とも言う、と付記をつけて報告するのが筋ですが、何故だか素直に認められないこだわりが有り、敢えて「新堀橋」報告になった次第です。

こだわりの中身とその理由付けが今回のレポートです。

相模川と言わず「新堀」「新堀川」というのは

関ヶ原合戦の翌年大津城廃城、初代城主戸田一西に対し、膳所城新築の緊急沙汰が徳川家康から下された。縄張(設計)は藤堂孝虎。城型式は湖城。

この時、相模川は真東に流れ下り、おものの浜(倍膳浜)に出ていた。これを、現在の膳所高校グラウンド辺りから真北90°迂回させ、西ノ庄に流路を変更させると同時に、「外堀」の機能を持たせた。新堀の誕生である。

徳川幕府初の公城として築城された膳所城であったが、幕府の体制が強固となり、各諸法度が整った時点で問題になったのは「外堀」。藩の石高は3万石から途中7万石になり、10代藩主以降廃藩まで6万石である。つまり法度上6万石程度では外堀を持つてはならない。膳所藩は法度破りをしていることになる。

膳所藩は「堀」の機能を確実にするため、上流に御用池(膳所池ノ内)という貯水用兼軍事用のダムを設営している。尚且つ堤の西側は1尺5寸(約50cm)低く設計、河口付近を閉鎖すると堀の西側一帯は完全に水没する仕組みになっている。

武士階級で堀の認識は徹底していた筈である。本音は堀と言い切りたいが幕府の目がある。武家社会、しかも親藩としてのプライドもあって、堀ではない、川であるが堀の字を入れる、という選択をした。「外堀」と認識せよ、但し公称は川である故「新堀川」である。各々、さよう心得よと徹底したのではなかったか。



これに対して藩の一般人、町人は「わが町の相模川は“堀”だよ、“新堀”だよ、だから戦いが起こったら“御用池”を壊して敵を足止めするのだ、とサラッと行って憚らなかったのではないか。「お殿さん本音いうたらええのに」と言ったか言わなかったかの話は別。これは建前違反だから、言うに厳しい罰があったかもしれない。幸いなことに幕末まで、堀としての機能が遺憾なく発揮され、幕府からも半ば公認の状態であったと述べる人もある。新堀橋（新堀川橋）の場所は相模川河口に位置し、江戸期を通じ膳所藩の“枅形防塁”つまり東海道と藩の出入口にある軍事要塞であった。

#### 明治に入り相模川が公称となった・そして橋名は

公に相模川となった。旧東海道は当時の国道である。相模川を渡る橋の整備はされたはずで、橋名もつけられたのだろうが、そこら辺の記録が無く、伝承する人も無い。不思議なくらいである。橋名は永らく無かったのかもしれない。

川の呼称について、元士族の子孫は「新堀川」、元町民の子孫は「新堀」呼び分けがあるのかと聞いてみると、昔は多少あったそう。今ではごっちゃになっており区別するしないは過去の事と皆さんおっしゃいます。

尤も川の流域に住む人たちの多くは今でも「新堀」で共通しているようだ。



曲がり初めの新堀

#### 藩士族も町民もお殿様が大好き、それで

一般的に、大津の町は商業町人の地、膳所は公官民の町と言われる。瀬田を守る軍事的な要塞の場所に膳所城が設えられ官民一体で京の町を守ったという気概が根強く、他藩と性質の異なる城下であったのは事実。特段の悪政も少なく、お殿様好きの藩であったと言う人が多い。新堀川という呼称についても、幕府に憚り、川ですと言い続けたお殿様始め武士階級を町民階層の人々は「武士はつらいもんやネー」と同情の目で見ていた。という言葉、レポートしている間にたくさん聞いた。

橋の名前は地域の漁業関係者がつけたと言う証言がありました。結論です。

「堀」に架かる「橋」だとはっきりさせましょう。歴代のお殿様、特に初代藩主の戸田左門一西公は喜んでくれはるはず。という心遣いがあったそうです。

左門の殿さん「町人どもめ、やっとワシの気持ちがあったか、大義じゃ、大義じゃ」と言う声が聞こえてきそうです。

色々な方に話を聞きましたが、正直裏付け証拠はありません。皆さん、遠い昔の記憶探しです。個人の意見が加わり脚色もあるかもしれませんが。

改めて、旧東海道が相模川を渡る橋名は「新堀橋」と報告します。

## 7月～9月の活動報告

月	日	内容	参加者	主な議題・活動
7月	6日(土)	定例会	7名	①次回調査内容検討 ②びわはく4号投稿内容 ③夏のアキアカネ調査計画 ④びわ博フェス関連
	20日(土)	定例会	9名	①びわ博フェスワークショップ内容検討 ②夏のセミ調査内容詳細確認
8月	3日(土)	アキアカネ調査	14名	①アキアカネマーキング調査 びわ湖バレイ：時間 10:30～14:30
	17日(土)	定例会	7名	①2019年第2回調査内容検討 ②びわ博フェスワークショップ内容・役割決定
9月	7日(土)	定例会	10名	①掲示板96号内容確認 ②夏のセミ調査経過報告
	21日(土)	定例会	11名	①掲示板96号発送

## 10月～12月の活動予定

	日	時	内容	場所
10月	5日(土)	13:15～15:45	定例会	交流室
	12日(土)	13:30～15:00	赤トンボ調査	伊香立
	19日(土)	10:00～16:00	びわ博フェス・定例会	会議室・交流室
11月	2日(土)	13:15～15:45	定例会	交流室
	16日(土)	13:15～15:45	定例会	交流室
12月	7日(土)	13:15～15:45	定例会	交流室
	21日(土)	13:15～15:45	定例会	交流室

定例会は原則として第1、第3土曜日の13:15～15:45に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。



滋賀県立  
琵琶湖博物館  
交流センター  
〒525-0001 草津市下物1091  
TEL 077-568-4611 (1F) FAX 077-568-4650  
Email: freporter@biwahaku.jp

### 編集後記

今年の夏も暑かった。加齢を重ねるスタッフもどうにか酷暑をクリアーできたようです。レポーターの皆さんはいかがでしたか。セミの調査で始まった夏はまもなく終わりますが、「せみ」はそのままびわ博フェスの会場に持ち込まれます。ショップの中身は「せみあそび・せみクイズ」です。エビ豆をきっかけに、滋賀県の「食」について関心が及んでいますが、年度後半の調査準備もすすんでいます。レポーター全員参加を目論んでいます。(中野)